

(別紙 3)

秋田県における認定鳥獣捕獲等事業者等の育成に係る評価報告 (R7 補正)

1 認定鳥獣捕獲等事業者等の現状や課題等

人の生活圏への出没を抑制するため、人の生活圏に隣接した地域におけるクマの捕獲圧強化が求められているが、出没するクマを対象に行う箱わなを用いた有害鳥獣捕獲以外でクマを能動的に捕獲する技術の普及が課題となっている。

2 1の課題等に対応するため、本事業で実施した取組内容

実施時期	(1)犬を活用した捕獲実証・講習 令和8年2月～3月 (2)巻き狩りに関する講習 令和8年3月
場所	(1)秋田市上新城、下新城地区 (2)由利本荘市由利地区
目的	(1)犬を活用してクマを効率的に探索しながら、人の生活圏に隣接した山林においてクマに対する捕獲圧をかける技術の普及を図る。 (2)残雪期に有効と考えられる巻き狩りについて、技術の普及と実施者の確保、育成を図る。
対象者・講師 (人数も記載)	(1)講師 公益財団法人知床財団 山中正実氏 対象 地区猟友会員等のべ59名 (2)講師 鳥海射撃協会 会長 三浦俊雄氏 対象 巻き狩りの経験の浅い者、取り組みたい者 31名
内容	(1)秋田市近郊において、犬を使ったクマの探索と捕獲の実証を行う (2)県内1地区において、残雪期の巻き狩りについて講習会を行う。
方法	(1)県外で犬を活用してクマの捕獲等を行っている者を講師とし、人の生活圏に隣接した山林において犬を使ったクマの探索及び捕獲を実施しながら、犬の活用方法等についての技術普及を図る。 (2)県内でクマの巻き狩りを実施している猟友会員を講師に、実際の事例を紹介しながら巻き狩りの手法について学ぶ講習会を実施する。
評価方法	参加者の満足度等により評価を行う。
事業費	委託料 1,500 千円
備考	(1)、(2)いずれも単年度実施ではなく、実施状況を踏まえながら継続的に実施していくことを検討する。

注1：項目に沿って、実施した研修会等の具体的内容を記入すること。なお、「目的」には育成したい人材像も記入し、「評価方法」には目的や育成したい人材像に対する事業内容の適切性の検証方法や事業効果の測定方法等を記入すること。

注2：事業終了後の評価結果では、各項目について、実施した結果を記入すること。

3 2の取組に対する評価と今後の課題等（事業終了後の評価結果時のみ記入）

(1)犬を活用した捕獲実証・講習

実施地区において、犬を活用して広範囲にクマの探索が可能となることを学んだほか、今春は当該地区にクマが存在していないことの確認ができた。

課題としては、人の生活圏に隣接した地域での実施となることから、部外者の入り込みを監視するなどの労力も必要であることが判明した。

春季の管理捕獲として人の生活圏に隣接した地域で捕獲圧をかけていくためには、こうした犬の活用や、隣接する猟友会同士の協力などを図りながら、継続して実施できる体制を構築していく必要があるため同様の取組を継続し、技術の実装を推進していく。

(2)巻き狩りに関する講習

実施している地域は少ないことから、一般の狩猟者はクマの巻き狩りについて話を聞く機会が乏しく、経験の浅い受講者は興味深く話を聞いていた。

しかしながら、全県的に巻き狩り文化を復活・展開させていくためには、経験豊富な狩猟者と共に経験を積んでいく必要があり容易に実施できるものではないことが課題となっているが、こうした機会を重ねながら少しずつ進めていく必要がある。

注：1の課題及び2の各記載内容等も踏まえ、取組が適切に実施されたか、目的に対して効果があったか等の評価を具体的に記入すること。

また、評価を通じ明らかになった取組の改善点や今後の認定事業者の育成の課題等についても記入すること。

4 その他

注：特記すべき事項があれば記入すること。